

10. 須磨浦公園駅付近の歴史と見どころ

<源平合戦 ～ 山・海へ行く技術>

須磨浦公園駅は無人駅ですが、阪神電鉄と山陽電車の直通特急（多くは姫路行き）の一部が折返す重要な駅です。隣接する須磨浦ロープウェイ（須磨浦山上遊園駅行き）との接続駅でもあります。駅のまわりに人家はなく松林のある静かな公園です。別の顔として六甲全山縦走（宝塚までの56kmを1日で踏破）を目指すハイカーの出発駅でもあります。

歴史的には、源平合戦で有名な鶴越（ひよどりごえ）の逆落とし（この駅のすぐ東側にある一ノ谷の急坂を下ったとされている）がなされた場所です。なお付近には鶴越という地名は無く、直線距離で10kmほど北西方向に鶴越という地名が残っています。

この報告で紹介したいのは、一ノ谷地域は神戸市の行った大土木事業（山・海へ行く）の要になった場所であることです。当時神戸市は六甲山系を削って住宅地を造成し、削り取った土砂で人口島を作る事業を行っていました。人口島に必要な土砂が膨大なため、ダンプカーで運ぶと道路が渋滞してしまうので、造成地から海岸までベルトコンベアで運び、その後は海上輸送という考えで積出用の岸壁が建設されたのがこの場所です（当時、株式会社神戸市と俗称されていました）。積出岸壁は1964年～2005年の41年間運用され、当初は1.4kmのベルトコンベアでしたが、順次延伸されて最終的に14.5km先の、神戸複合産業団地を造成した際の土砂搬出に使われました。

運び出した土砂は3億2000万 m^3 （5億7000万 t ）であり、10 t ダンプ車で単純に日数割りすると毎日3800台分が運ばれた計算であり、合理的な手法であったと評価出来ます。

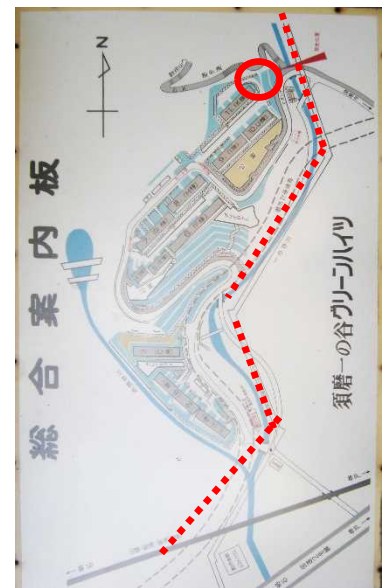
工事が終了して15年経った現在、一ノ谷付近にベルトコンベア関連の遺跡はないかと考えて探しました。残念ながら海岸にあるとされている記念碑もなくなっており、わずかに右の写真の看板があるだけでした。一つの大きな歴史ですので、記念碑だけでも欲しいなと思います。



記念碑の写真より



航空写真（神戸市HP）
手前が高倉地域
その奥が明谷地域



団地に残る看板
○ が看板の場所
・・・がベルトコンベアの位置

（藤橋雅尚 記）